

## 大相撲 引退の元幕内 里山が会見「幸せな相撲人生」

<NHK NEWS WEB>

2018年11月25日 16時22分



大相撲の元幕内で、九州場所を終えて現役を引退した37歳の里山が記者会見し、「皆様に応援していただき、振り返ると幸せな相撲人生でした」と感謝の言葉を述べておよそ15年間の土俵生活に別れを告げました。

尾上部屋の里山は、鹿児島県奄美市出身の37歳。日本大学を卒業後、平成16年の春場所、前相撲で初土俵を踏みました。

平成18年の初場所で新十両に昇進、よくとしの春場所で十両優勝し、続く夏場所には新入幕を果たしました。その後は、けがなどもありましたが、長く相撲を取りました。今場所は、西幕下9枚目で臨み、4勝3敗で勝ち越しましたが、引退を決めました。

里山は25日、九州場所が行われている福岡市の福岡国際センターで記者会見し「ぼろぼろになって土俵に立てなくなるまで相撲を取ろうと思っていたが、その気持ちも変わり、最後はご当所の九州場所で相撲を取ろうと決心していました」と心境を語ったうえで、「7歳から37歳まで毎日、相撲に携わってきたので引退は実感がわかない。たくさんの皆様に応援され、支えていただき、振り返ると幸せな相撲人生でした」と感謝の言葉を述べて、およそ15年間の土俵生活に別れを告げました。

里山は、年寄 佐ノ山を襲名し、今後は親方として後進の指導に当たります。